

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース(言語学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
-----------------------	------------------------

<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文学類の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文学類の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>
--	--

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学・漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	--

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	◎	○	△
21401	言語研究入門	言語研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2	*				◎		
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2		*			◎		
21414	言語学概論1	・言語学の基本的な概念と考え方を理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスに触れる。 ・音韻論、形態論、統語論などの分野の基礎固めをする。	2	*	*			◎	○	
21415	言語学概論2	・言語学の基本的な概念と考え方をさらに理解する。 ・多様な言語の実例と理論のエッセンスについて更に学ぶ。 ・意味論、社会言語学、比較言語学などの分野の基礎固めをする。	2			*	*	◎	○	
42530	歴史言語学1	・言語の歴史的研究についての理解を深める。 ・原典講読を通じて、言語間の比較研究のあり方、方法論を理解する。 ・言語研究の歴史について理解する。	2~4	*				◎	○	○
42531	歴史言語学2	・言語の歴史的研究についての理解を深める。 ・原典講読を通じて、言語間の比較研究のあり方、方法論を理解する。 ・言語研究の歴史について理解する。	2~4		*			◎	○	○
42532	社会言語学1	・言語と社会のかかわりについて学ぶ。 ・言語の多様性、非等質性を理解する。	2~4	*				○	◎	○
42533	社会言語学2	・言語の多様性、非等質性を理解する。 ・社会言語学におけるデータの分析方法を身につける。	2~4		*			○	◎	○
42534	言語と認知A1	言語認知の実証的研究がこれまでどのような問題をどのように解決してきたかに関する基礎的な知識を身につける。	2~4	*					◎	○
42535	言語と認知A2	言語認知の実証的研究がこれまでどのような問題をどのように解決してきたかに関する基礎的な知識を身につける。	2~4		*				◎	○
42536	言語と認知B1	言語認知の仕組みを科学的に実証する方法を学び、自らが問題設定を行い、その解決方法を検討する能力を身につける。	2~4			*			○	◎
42537	言語と認知B2	言語認知の仕組みを科学的に実証する方法を学び、自らが問題設定を行い、その解決方法を検討する能力を身につける。	2~4			*			○	◎
42538	音声学1	・言語音の産出の仕組みを理解する。 ・個別子音の聞き取り、産出、記述が出来るようになる。	2~4	*				◎	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース(言語学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
-----------------------	------------------------

人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文語学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。

1. テキストを正確に読解することができる。
2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。
3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。
4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。
5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。
6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。

言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文語学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

【学類のCP】
 人文学類の学問体系的骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。
 【コースのCP】
 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。

コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。
 外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。
 複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。
 ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。
 討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。
 原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q				◎	○			
				1	2	3	4					
42539	音声学2	・言語音の産出の仕組みを理解する。 ・個別子音の聞き取り、産出、記述が出来るようになる。	2~4		*			◎				
42540	音声学3	・個々の言語音の聞き取り、産出、記述に更に習熟する。 ・プロソディーについての理解を深める。 ・音響的分析の理論と方法を学ぶ。	2~4			*		◎				
42541	音声学4	・個々の言語音の聞き取り、産出、記述に更に習熟する。 ・プロソディーについての理解を深める。 ・音響的分析の理論と方法を学ぶ。	2~4			*		◎				
42542	個別言語演習A1	・対象言語の音声・音韻の基礎を学ぶ。 ・対象言語の文法の基礎を習得する。 ・現行の言語については最も初歩の運用能力を身につける。	2~4	*				○	◎			
42543	個別言語演習A2	・対象言語の音声・音韻の基礎を学ぶ。 ・対象言語の文法の基礎を習得する。 ・現行の言語については最も初歩の運用能力を身につける。	2~4		*			○	◎			
42544	個別言語演習A3	・対象言語の文法解析が出来るようになる。 ・原語で書かれたテキストの読解力を身につける。 ・現行の言語については初歩の運用能力を身につける。	2~4			*		○	◎			
42545	個別言語演習A4	・対象言語の文法解析が出来るようになる。 ・原語で書かれたテキストの読解力を身につける。 ・現行の言語については初歩の運用能力を身につける。	2~4			*		○	◎			
42546	個別言語演習B1	・対象言語の音声・音韻の基礎を学ぶ。 ・対象言語の文法の基礎を習得する。 ・現行の言語については最も初歩の運用能力を身につける。	2~4	*				○	◎			
42547	個別言語演習B2	・対象言語の音声・音韻の基礎を学ぶ。 ・対象言語の文法の基礎を習得する。 ・現行の言語については最も初歩の運用能力を身につける。	2~4		*			○	◎			
42548	個別言語演習B3	・対象言語の文法解析が出来るようになる。 ・原語で書かれたテキストの読解力を身につける。 ・現行の言語については初歩の運用能力を身につける。	2~4			*		○	◎			
42549	個別言語演習B4	・対象言語の文法解析が出来るようになる。 ・原語で書かれたテキストの読解力を身につける。 ・現行の言語については初歩の運用能力を身につける。	2~4			*		○	◎			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース(言語学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

主履修分野のカリキュラム														
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4							
42550	個別言語演習C1	・対象言語の音声・音韻の基礎を学ぶ。 ・対象言語の文法の基礎を習得する。 ・現行の言語については最も初歩の運用能力を身につける。	2~4	*					○	◎	○			
42551	個別言語演習C2	・対象言語の音声・音韻の基礎を学ぶ。 ・対象言語の文法の基礎を習得する。 ・現行の言語については最も初歩の運用能力を身につける。	2~4		*				○	◎	○			
42552	個別言語演習C3	・対象言語の文法解析ができるようにする。 ・原語で書かれたテキストの読解力を身につける。 ・現行の言語については初歩の運用能力を身につける。	2~4			*			○	◎	○			
42553	個別言語演習C4	・対象言語の文法解析ができるようにする。 ・原語で書かれたテキストの読解力を身につける。 ・現行の言語については初歩の運用能力を身につける。	2~4				*		○	◎	○			
42554	音韻論基礎1	・音韻論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた音韻分析の方法を学ぶ。 ・音韻分析の基本を身につける。	2~4	*					◎			○	○	
42555	音韻論基礎2	・音韻論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた音韻分析の方法を学ぶ。 ・音韻分析の基本を身につける。	2~4		*				◎			○	○	
42556	形態論基礎1	・形態論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた形態分析の方法を学ぶ。 ・形態分析の基本を身につける。	2~4	*					◎			○	○	
42557	形態論基礎2	・形態論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた形態分析の方法を学ぶ。 ・形態分析の基本を身につける。	2~4		*				◎			○	○	
42558	統語論基礎1	・統語論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた統語分析の方法を学ぶ。 ・統語分析の基本を身につける。	2~4	*					◎			○	○	
42559	統語論基礎2	・統語論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた統語分析の方法を学ぶ。 ・統語分析の基本を身につける。	2~4		*				◎			○	○	
42560	意味論基礎1	・意味論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた意味分析の方法を学ぶ。 ・意味分析の基本を身につける。	2~4	*					◎			○	○	
42561	意味論基礎2	・意味論の基礎的な知識を身につける。 ・言語データを用いた意味分析の方法を学ぶ。 ・意味分析の基本を身につける。	2~4		*				◎			○	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース(言語学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文語学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文語学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心をもち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	--

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q				◎	○	△	
				1	2	3	4				
42562	理論言語学演習A1	・音韻分析の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた音韻分析の実際を学ぶ。 ・音韻分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*		○		◎	○
42563	理論言語学演習A2	・音韻分析の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた音韻分析の実際を学ぶ。 ・音韻分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*		○		◎	○
42564	理論言語学演習B1	・形態論・統語論の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた形態・統語分析の実際を学ぶ。 ・形態・統語分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*		○		◎	○
42565	理論言語学演習B2	・形態論・統語論の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた形態・統語分析の実際を学ぶ。 ・形態・統語分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*		○		◎	○
42566	理論言語学演習C1	・意味論等の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた分析方法の実際を学ぶ。 ・言語データ分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*		○		◎	○
42567	理論言語学演習C2	・意味論等の理論的側面を学ぶ。 ・多様な言語のデータを用いた分析方法の実際を学ぶ。 ・言語データ分析の応用力を身につけ、発表ができるようにする。	2~4			*		○		◎	○
42568	フィールド言語学1	・フィールドワークの意義を考える。 ・フィールドワークを実践するためのスキルを身につける。 ・データのまとめ方とプレゼンの方法を学ぶ。	2~4			*		○		◎	
42569	フィールド言語学2	・フィールドワークの意義を考える。 ・フィールドワークを実践するためのスキルを身につける。 ・データのまとめ方とプレゼンの方法を学ぶ。	2~4			*		○		◎	
42570	フィールド言語学実習	・フィールドに出て調査の実際を体験し、技術を磨く。 ・収集したデータの扱い方を学ぶ。 ・データのまとめとプレゼンを行えるようにする。	3~4	*	*			○		◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース(言語学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
42571	応用言語学実習	・言語音の物理的性質の基礎を学ぶ。 ・PCを用いた分析方法を身につける。 ・言語分析に用いる動画・音声などコンテンツの扱いに慣れる。	2~4			*	*		○	
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*				○	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*	◎	○	◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学の学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*		○	○
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)		◎		
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)		◎		
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*		○	○	
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*		○	○	
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学ぶための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*				◎		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース(言語学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>	<p>外国事情に関心をもち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>	<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>	<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>	<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
主履修分野のカリキュラム							
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
11062	学類共通英語B	<p>・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。</p> <p>・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。</p>	3		*		

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。